

令和2年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号

令和2年11月19日
発表：福島県病害虫防除所

1 害虫名：ネギハモグリバエ別系統（B系統）

2 学名：*Liriomyza chinensis* Kato

3 作物名：ネギ

4 発生経過

令和2年9月に、県南地方のネギほ場において、従来から発生しているネギハモグリバエ（以下、A系統）（写真1、2）とは様相の異なる激しい食害が確認された（写真3、4）。被害株から採集したネギハモグリバエ成虫について、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門に同定を依頼したところ、遺伝子解析により別系統（以下、B系統）であることが判明した。本県でのB系統の発生は初確認である。本系統は、平成28年に京都府で初確認されて以降、19都府県で発生が確認されている。

5 形態

B系統は、A系統と形態的な差異が認められないため、外観による両系統の識別は困難である。両系統とも、成虫の体長は約2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である。幼虫はウジ虫状で、成長すると体長は約4mmとなり、蛹は体長約3mmで、褐色で俵状の形態をしている。

6 生態と被害状況

両系統とも、成虫は葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで、葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。B系統は、A系統より、1葉あたり幼虫数が多い傾向にある。B系統による初期の食害は、不規則な白線状であるが、後に近接した複数の食害痕が癒合し、葉が白化する。

7 防除対策

- （1）薬剤防除は、ネギハモグリバエやハモグリバエ類に適用のある薬剤を使用する。被害の症状がA系統より激しくなるため、発生初期の防除を徹底する。
- （2）発生源となる被害葉や収穫残渣は、1カ所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い裾部を土で埋める等、適切な処分に努める。

病害虫発生予察情報ホームページにも掲載されています。 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>
問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）
TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp



(写真1、2) 従来のネギハモグリバエ成虫及び加害痕(2006年)



(写真3) ネギハモグリバエB系統の加害



(写真4) ネギハモグリバエB系統の加害